

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 機械受注統計調査(2018年5月)

発表日: 2018年7月11日(水)

～反動減は小幅にとどまる。設備投資は好調に推移～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL: 03-5221-4528

(単位: %)

		民需			代理店	官公需	外需
		船舶・電力除く	製造業	非製造業			
			前期比	前期比			
17	1-3月	▲ 1.2	▲ 1.3	▲ 0.5	1.4	▲ 7.0	▲ 1.0
	4-6月	▲ 3.4	2.6	▲ 8.1	5.8	▲ 11.7	7.9
	7-9月	2.8	6.2	0.0	▲ 2.6	11.6	8.8
	10-12月	0.3	3.5	▲ 2.1	▲ 1.4	▲ 5.0	0.6
18	1-3月	3.3	2.5	3.4	0.3	▲ 6.4	▲ 1.7
	4-6月(見)	7.1	9.9	3.7	4.7	1.1	11.2
17	1月	▲ 3.6	▲ 9.1	1.4	▲ 10.5	6.0	0.2
	2月	1.1	3.7	1.4	15.8	▲ 23.9	0.8
	3月	0.4	▲ 0.7	▲ 4.8	▲ 1.8	9.5	▲ 2.4
	4月	▲ 2.1	2.1	▲ 2.7	1.1	▲ 6.2	11.8
	5月	▲ 1.9	1.7	▲ 3.4	1.9	▲ 19.3	▲ 2.0
	6月	▲ 1.8	▲ 4.1	▲ 1.5	▲ 0.5	39.5	▲ 2.7
	7月	4.5	1.8	4.2	▲ 1.4	▲ 2.9	7.6
	8月	3.2	11.8	▲ 0.2	▲ 0.2	12.6	9.4
	9月	▲ 5.5	▲ 3.2	▲ 5.1	▲ 4.2	▲ 22.8	▲ 6.9
	10月	2.7	5.1	▲ 0.7	1.3	8.2	3.7
	11月	5.5	0.0	6.0	2.3	0.3	2.3
	12月	▲ 9.3	▲ 8.5	▲ 5.3	▲ 3.7	1.8	▲ 8.2
18	1月	8.2	9.9	4.4	▲ 3.1	▲ 18.7	11.6
	2月	2.1	8.0	0.0	3.3	23.6	▲ 7.8
	3月	▲ 3.9	▲ 17.5	2.2	9.3	▲ 5.2	▲ 7.2
	4月	10.1	22.7	0.4	▲ 0.2	6.2	10.0
	5月	▲ 3.7	1.3	0.2	5.5	6.1	1.8

(出所) 内閣府「機械受注統計」

○反動減は小幅にとどまる。4-6月期は増勢加速

内閣府から発表された18年5月の機械受注(船舶電力除く民需)は前月比▲3.7%と、事前の市場予想(前月比▲5.7%)を上回った。2ヶ月ぶりの減少ではあるが、4月に前月比+10.1%と大幅に増加した後にしては反動がかなり小さい印象で、強い結果とって良い。実際、4-5月平均の機械受注の水準は1-3月期を6.0%Ptも上回っており、4-6月期が4四半期連続で増加することは確実な状況である。なお、内閣府見通し(前期比+7.1%)達成のためには6月に前月比+5.1%以上、達成率の動向を加味した単純集計値(前期比+4.9%)達成には前月比▲1.3%以上が必要である。内閣府見通しの達成は微妙なところだが、単純集計値であれば十分クリアできそうだ。

機械受注は16年初から17年前半まで一進一退の動きを続けていたが、17年後半からは緩やかな増加基調に転じ、足元では増勢が加速しつつあるように見える。18年入り後、景気モメンタムの鈍化を示す経済指標が増えてきたことや、世界的な貿易戦争懸念などの先行き不透明感の強まりといった懸念材料はあるが、今のところそれが企業の設備投資手控えに繋がっている様子は窺えない。

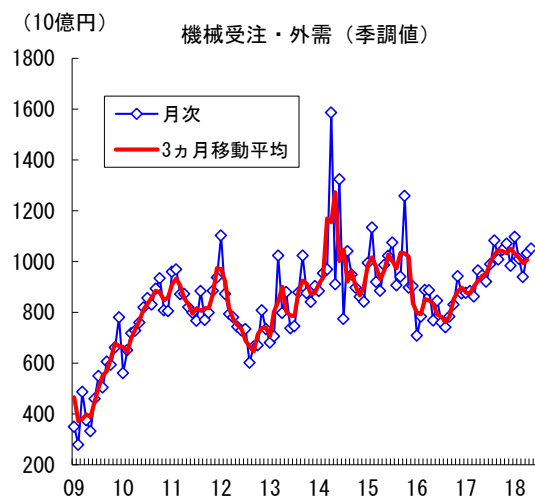
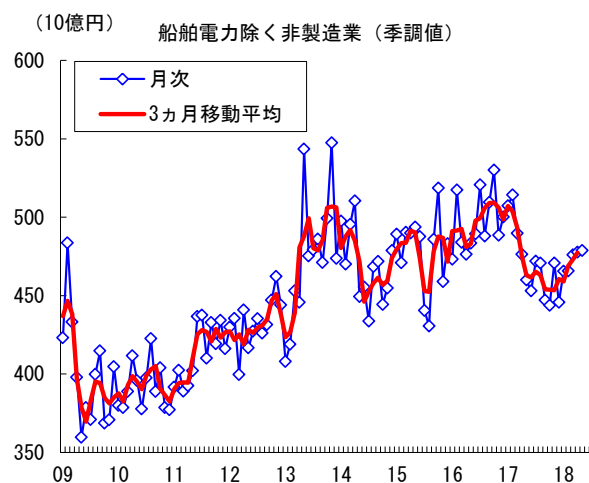
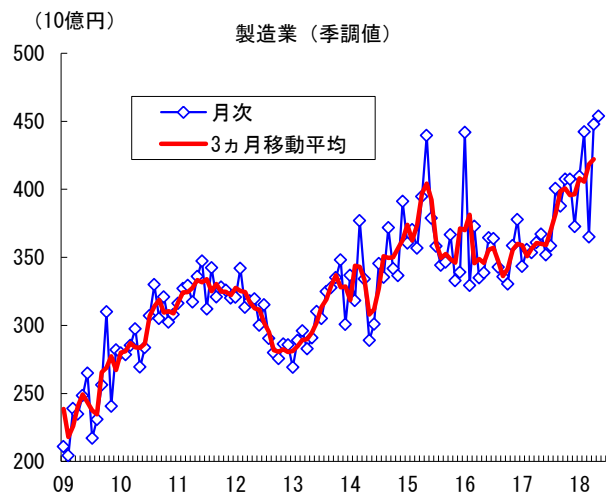
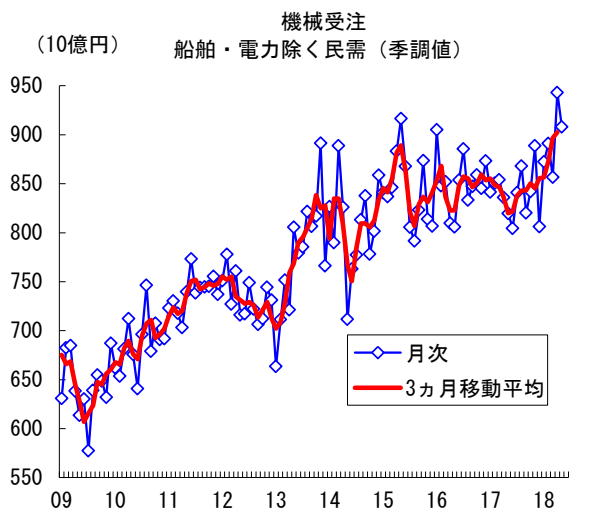
また、設備投資には、機械受注がカバーする機械投資のほか、建設投資や研究開発投資などもあるが、それらも足元で好調に推移している。6月調査の日銀短観でも18年度の設備投資計画は非常に強く、企業の設備投資意欲の強さが示されている。設備投資は先行きも増加基調で推移するとみられ、景気の下支え役として貢献する可能性が高いだろう。

○業種別の動向

業種別にみると、製造業からの受注が前月比+1.3%、非製造業（船舶・電力除く）からの受注が同+0.2%と、ともに微増となった。製造業は4月に前月比+22.7%と急増していたため、今月は反動が出るかと思われたが、実際にはプラスで着地している。4-5月平均の値も1-3月期を11.2%Pt上回っており、4-6月期は大幅増が確実となっている。製造業は15年～16年は一進一退の動きにとどまっていたが、17年4-6月期以降は増加に転じ、足元まで好調な推移が続いている。

非製造業（船舶・電力除く）は前月比+0.2%となった。増加幅は僅かだが、これで一応5ヶ月連続の前月比プラスである。17年は年間を通じて弱い動きとなっていたが、18年に入って持ち直しているように見える。4-5月平均の水準も1-3月期を2.0%Pt上回っており、1-3月期（前期比+3.4%）に続いての2四半期連続増加の可能性が高くなっている。足元の機械受注の回復は製造業主導だが、非製造業でも持ち直しの動きがみられつつあることは好材料といえるだろう。

また、外需も前月比+1.8%と増加している。4月の外需が前月比+10.0%と高い伸びになっていた後にしては悪くないが、2、3月に累計で▲14.4%ほど減少していることを考えると、強いといえる数字でもない。4-5月の水準は1-3月期を2.6%Pt上回っており、4-6月期が前期比プラスに転じる可能性は出てきたが、17年10-12月期が前期比+0.6%、18年1-3月期が前期比▲1.7%と足踏みになっていた後にしては物足りなさが残る。減少基調に転じているわけでは全くないが、やや頭打ち感が出てきている印象だ。米国を牽引役とする世界経済の拡大基調に変化がないことなどを踏まえると、海外からの受注も先行き持ち直す可能性が高いと予想しているが、その動向には注意しておきたい。



(出所) 内閣府「機械受注統計調査」